

漁業経済学会 短 信

【第59回大会の案内】

■ 開 催

場 所：東京海洋大学品川キャンパス 東京都港区港南4-5-7
事務局：濱田 武士 (TEL&FAX 03-5463-0566 fishecono@gmail.com)
日 程：2012年5月25日～27日

5月25日（金）：全国理事会

5月26日（土）：共通論題 13:00～16:55 講義棟 大講義室
総会 17:00～18:00 講義等 大講義室
懇親会 18:00～ 学生会館 食堂

5月27日（日）：一般報告 9:00～15:00

■ 大会参加費

大会参加費：2,000円
懇親会費：4,000円

■ 参加申込方法

事前申し込み制とする。振り込み用紙を同封しましたので参加費、懇親会費を納入してください。当日受付もいたしますが、事務局の負担を軽減したいので、会員の皆様には事前申し込みへのご協力を宜しくお願いいたします。

■ 学会賞候補者の推薦

学会賞候補者の推薦を募集しています。候補対象者名と理由を記して事務局（濱田武士）までお送り下さい。お送り頂いたものは学会賞選考委員会に提出します。

委員長（代表理事）： 服部昭（2013年5月まで）

委員：宮澤晴彦、佐野雅昭（2012年5月まで）

山尾政博、加藤辰夫、加瀬和俊、伊藤康宏（2013年5月まで）

【第59回共通論題（5月26日）】

「東日本大震災からの被災漁業地域復興の現状と課題」

3月11日に発生した東日本大震災から既に8ヶ月が過ぎ、11月21日には第三次補正予算も成立し、遅いとの厳しい指摘を受けながらも被災地復興に向けた政府の枠組みはほぼ出そろったように見える。また、多くの被災自治体でも10～11月に

かけて復興構想あるいは復興計画等が策定され、政府方針を踏まえた自治体の具体的な取り組みが進もうとしている。しかし、このような動きの一方で復興に取り組む現地は、復興への具体的な検討を前にして様々な問題に直面し、新たな困難を抱えている。被災以降、各種の学会が緊急シンポジウムや研究集会等を開催し、多面的な議論がなされてきたが、漁業経済学会大会が開催される5月末は被災から既に1年を経過した時期であり、被災地の復興状況と復興に当たる現地が抱える課題がより鮮明になっている時期と考えられる。この観点から、大会では主に現地調査に基づく復興状況と復興の課題について確認、検討する。

代表理事挨拶：13:00～13:05

服部 昭

座長挨拶：13:05～13:10

加瀬和俊（東京大学）

第1報告：13:10～13:40

富田 宏（(株)漁村計画）

漁村復興の経緯と計画検証～中小漁村をとりまく1年目の実相と復興グランドデザインの不在～

第2報告：13:40～14:10

馬場 治（東京海洋大学）

被災地における漁業協業化の現状と課題

第3報告：14:10～14:40

廣田 将仁（(独)中央水産研究所 経営経済研究センター中央水産研究所）

水産加工業の再生にかかる課題と再建の方向

第4報告：14:40～15:10

乾 政秀（水土舎）

放射能汚染による漁業被害の現状

休憩

総合討論：15:30～16:55

総会：17:00～18:00

懇親会：18:00～

【一般報告会（5月27日）】

（発表25分：質疑応答5分）

第1報告：9:00～9:30

張益卓（東京海洋大学大学院）：中国水産物貿易における近年の動向 - サバを中心として -

第2報告：9:30～10:00

牧野光琢・金子貴臣（水研セ中央水研）：資源の大規模変動に適合した漁業管理制度の検討：北部太平洋まき網漁業の場合

第3報告：10:00～10:30

大西学（海洋産業研究会）：割当の寡占における魚種比較とその特徴

第4報告：10:30～11:00

小田憲太郎（独立行政法人水産総合研究センター開発調査センター）・廣田将仁（同 中央水産研究所）：タチウオ流通構造の現状と評価

第5報告：11:00～11:30

長谷川健二（福井県立大学）

魚類養殖業の市場条件と経営構造—マダイ養殖業を対象として—

（休憩）

第6報告：13:00～13:30

棚木 誠（埼玉大学）：福島第一原発事故の水産物輸出への影響と課題—長崎鮮魚の中国向け輸出の事例研究を中心に—

第7報告：13:30～14:00

佐久間美明（鹿児島大学）：水産物の放射性物質汚染対策：福島第一原発事故後におけるリスク管理の現状と課題

第8報告：14:00～14:30

田平紀男（鹿児島大学名誉教授）：沿岸漁業への民間企業参入と漁業権

第9報告：14:30～15:00

岡本勝（いわし食用化協会）：日本経済沈滞下および大震災後の我が国水産業のこれから

【投稿論文の募集】

現在、漁業経済研究 57 巻 1 号に掲載する論文等を募集します。投稿締め切り日は 2012 年 7 月 20 日とします。

投稿資格はすべての会員にあります。沢山の投稿をお待ちしております。なお、編集スケジュールにつきましては 2010 年度から改めましたので留意して下さい。

投稿規定は 2011 年 5 月 29 日改正版のものとします。投稿を希望する場合、必ず「投稿規定」と「執筆要領」をよく読み、それに従って執筆してください。以下の URL に記載されている投稿規定を参照してください。

<http://www.gyokei.sakura.ne.jp/contribution/contribution.htm>

また投稿の際には、漁業経済研究 55 巻 1 号に記載されている「送り状」をコピーして、必要事項を記入して添付して送付してください。

投稿原稿が投稿規定、執筆要領に従っていない場合や投稿原稿の内容が漁業経済学会規則第 3 条に適さない場合、投稿を受け付けないこともあります。また、締め切り日を過ぎてから投稿した場合、その原稿の審査は次号の編集作業に回します。

編集計画

	発行号		備考
	1号	2号	
原稿投稿締め切り	7月20日	1月20日	受付日
編集委員会	7月末	1月末	
査読			
査読結果回収	8月末	2月末	
編集委員会	9月初旬	3月初旬	掲載可の場合、受領日
審査結果送付			
修正稿提出締め切り	10月末	4月末	
編集委員会	11月初旬	5月初旬	掲載可の場合、受領日
発行・送付	1月中旬発行	6月中旬発行	

提出方法

投稿者は、編集委員会総務担当に、以下の要領で送付すること。

- ①原稿の提出部数は、区分を問わず、3部(3部ともコピーで可)とする。
- ②電子ファイルをCDなどに保存して送付するか、電子メールに添付ファイルとして送付すること。(ファイルサイズが大きい場合、図表ファイルをpdf化するなど工夫をしてください)
- ③「漁業経済研究」投稿原稿送り状を同封すること。送り状は漁業経済学会HPからダウンロードして入手してください。

提出先：〒108-8477 東京都港区港南4-5-7 東京海洋大学 濱田武士 宛

電子メールアドレス：kudot@kaiyodai.ac.jp

【会費納入のお願い】

2012年度までの年会費の納入を宜しく願います。同封の払込取扱票にて納入していただきますようお願いいたします。なお、2012年度の年会費をすでに納入されている方、郵便口座からの自動引落しによって納入いただいている方には払込取扱票を同封していませんのでご了承ください。郵便口座からの自動引落しは2013年1月下旬を予定しています。ご不明な点がございましたら会計担当までご連絡ください。

(工藤貴史 TEL:03-5463-0569 E-mail:kudot@kaiyodai.ac.jp)

【編集後記】

東日本大震災震災から1年が過ぎました。水産業の復興に向けて被災地ではこの一年間さまざまな動きがありましたが、復興どころか、復旧でさえまだまだままならない状況です。ひとまず各被災自治体において復興プランが作成されましたが、実践に至っていないところが大半です。そのため、実践に向けて、被災地では専門家の知恵を必要としています。学界関係者の出番だと思います。(濱田武士)

学会短信 No. 123

2012. 4. 20

漁業経済学会事務局(総務: 濱田 武士)

〒108-8477 東京都港区港南4-5-7

東京海洋大学内

TEL & FAX 03-5463-0566

e-mail fishecono@gmail.com